

青森県立保健大学大学院健康科学研究科カリキュラム・ポリシー

博士前期課程

保健、医療及び福祉に関わる高度な知識、問題解決及び研究能力を修得することを目的として、基盤科目、専門科目、特別研究から構成される課程を設定しています。なお、CNS(専門看護師)コースについては、一般社団法人日本看護系大学協議会の専門看護師教育課程基準に基づき、科目等を設定しています。

○基盤科目

研究の基礎となる科目について、研究倫理など専門領域にかかわらない<共通研究基礎科目>と、主に看護学や社会福祉学に特化した<専門研究基礎科目>を設定しています。さらに、健康科学などに関わる多様な実践及び学問体系の基盤となる科目として、生命科学・生理学科目群、疫学・統計学科目群を設定するとともに、地域の人々のより健康的な行動変容を推進するための基盤として、ヘルスリテラシー科目群を設けています。

これらの科目は、主に1年次に修得し、専門科目の履修や特別研究の計画・実施の土台となります。

○専門科目

地域保健、社会福祉、看護、理学療法、栄養などを専門とする学習者が、さらなる専門性の向上と、専門分野や職種の垣根を越えた実践・研究を推進するために、各専門科目を「モジュール」としてパッケージ化しました。修士(看護学)、修士(社会福祉学)では、それぞれに該当するモジュール等から一定以上の単位を修得する必要がありますが、修士(健康科学)では、「モデルコース」としての履修モデルは示すものの、基本的に自らの学習目標に沿って自由に科目の選択ができるようにしています。なお、CNSコースでは、修士論文となる課題研究(2単位)が必修となっています。

○特別研究

基盤科目及び専門科目を展開させ、自らが設定した特定の研究課題に対して、修士論文を作成、発表するための科目です。すべての学位において8単位(※CNSコースは除く)の必須科目となっています。

研究においては、特定の職種の枠を越えた課題意識、着想、方法及び実施が必要と考えられることから、実践や研究の対象及び場の層を考慮した、横断的な研究領域(保健・医療・福祉政策システム領域、対人ケアマネジメント領域、基礎研究・実用技術領域)を設定しています。

博士後期課程

保健、医療及び福祉に関わる高度な研究能力を身につけ、社会に還元しうる研究成果を発信することを目的として、共通科目、専門科目、特別研究から構成される課程を設定しています。

○共通科目

研究の基盤となる方法論等について、学際的な視点から修得できるように3つの研究領域の研究特論を設けるとともに、本学の重要な教育目標である「ヒューマンケア」について、その理念や専門知識を修得するための科目を設けています。

○専門科目

保健・医療・福祉政策システム領域、対人ケアマネジメント領域、基礎研究・実用技術領域におけるそれぞれの研究を深化させるために、最先端の知識や技術の学習機会を含めた、特別講義及び特別演習を設定しています。

○特別研究

共通科目及び専門科目を展開させ、自らが設定した特定の研究課題に対して、博士論文を作成、発表する科目です。研究においては、特定の職種の枠を越えた課題意識、着想、方法及び実施が必要と考えられることから、実践や研究の対象及び場の層を考慮した、横断的な研究領域（保健・医療・福祉政策システム領域、対人ケアマネジメント領域、基礎研究・実用技術領域）を設定しています。